

学習サポートが学習意欲と学校生活不安感に及ぼす影響

関西看護専門学校 木内 有美

【目的】

近年、看護系の専門学校に在籍する学生の社会背景は多様化しており、学習意欲の格差が大きい。上田ら¹⁾は上級生が下級生の学習支援を行う学習サポートを看護基礎教育に取り入れることは、学習サポートを行う側と受ける側の両者の学生の学習意欲の向上に有効であると述べている。本校では学習意欲の向上と技術学習の深化を期待し、2年生が1年生の看護技術に関する学習をサポートするシステムを取り入れているが、今回、上級生から下級生への情緒的学習サポートに着目し、それらが学習意欲と学校生活不安感にどのように影響しているのかを明らかにしたい。

【方法】

- ・教科外活動の一環として看護技術のベッドメイキングをテーマに、2年生が1年生に対して2対2で90分間の学習サポートを行った。その後、学生の任意ではあるが放課後を活用したサポートが継続された。サポートの際には、手順に沿ったデモンストレーションを行い、それらの目的や根拠を説明するように依頼した。2年生は2週間前から準備を始め技術を復習して臨んだ。
- ・対象者：学習サポートを受けた1年生(99名)
学習サポートを行った2年生(88名)
- ・学習サポートを行った時期：入学後3週目頃
- ・データの収集方法と分析：質問紙法
「看護学生用の学習意欲尺度」²⁾は本来7つの下位尺度であるが、構成要素が多い6つの尺度を選択した。更に「学習サポートに関する評価」³⁾と「大学生活不安尺度」⁴⁾を用いて調査し、分析を行った。
- ・倫理的配慮：対象者には文書で研究の趣旨、匿名性の確保、参加任意性を説明し集合調査法で回収した。

【結果】

学習サポートを高く受けている下級生は低い人に比べて学習意欲が高い傾向 ($p < 0.1$) が認められた。特に「友達から頼られ教えることの満足感」に有意差の傾向 ($p < 0.1$) がみられた(表1. 参照)。

学習サポートと学校生活不安感との関連性は認められなかった。

表1. サポートを受けた下級生の学習意欲

		高群 n = 47	低群 n = 52	t 検定
学習意欲	\bar{x}	72.6	68.1	p < 0.1
	n	13.1	12.7	
学習の計画的な実行	\bar{x}	14.5	13.6	
	n	3.4	3.1	
学習の理解と自信度	\bar{x}	8.1	8	
	n	3.5	3.3	
学習の認識と対策	\bar{x}	14.3	13.1	
	n	5.2	3.9	
教員からの評価と期待	\bar{x}	11	10.1	
	n	3.9	2.7	
頼られ教える満足感	\bar{x}	9.2	8.1	p < 0.1
	n	2.9	2.9	
集中力と努力度	\bar{x}	15.4	14.8	
	n	2.2	2.5	

学習サポートを高く行った上級生は低い人に比べて学習意欲尺度の下位項目における「学習の計画的な実行」、「友達から頼られ教えることの満足感」と「集中力と努力度」にのみ有意差の傾向 ($p < 0.1$) が認められた。(表2. 参照)

また、学習サポートを高く行った上級生は低い人に比べて学校生活不安感が低い傾向 ($p < 0.1$) がみられ、特に「日常生活不安感」において有意差の傾向 ($p < 0.1$) が認められた。(表3. 参照)

表 2. サポートを行った上級生の学習意欲

		高群 n = 42	低群 n = 46	t 検定
学習意欲	\bar{x}	69.0	66.4	
	n	10.5	9.5	
学習の計画的な実行	\bar{x}	12.4	11.3	p < 0.1
	n	2.9	2.8	
学習の理解と自信度	\bar{x}	8.3	9.1	
	n	2.7	2.6	
学習の認識と対策	\bar{x}	13.8	14.0	
	n	3.7	2.4	
教員からの評価と期待	\bar{x}	9.9	9.5	
	n	2.9	2.4	
頼られ教える満足感	\bar{x}	9.4	8.3	p < 0.05
	n	2.5	2.4	
集中力と努力度	\bar{x}	14.9	13.9	p < 0.05
	n	2.1	2.2	

表 3. サポートを行った上級生の学校生活不安感

		高群 n = 42	低群 n = 46	t 検定
学校生活不安	\bar{x}	61.4	67.2	p < 0.1
	n	15.7	14.3	
日常生活不安	\bar{x}	41.8	45.3	p < 0.1
	n	9.8	9.4	
評価不安	\bar{x}	19.6	21.9	
	n	7.1	5.6	

【考察】

今回の調査の結果、学習サポートと下級生の学校生活不安感との関連性はなかったが、学習サポートを高く受けた下級生は低い人に比べて学習意欲が高く、その中でも、「友達から頼られ教えることの満足感」が高いことは細川³⁾が述べている学習上の課題が生じたときに先輩や友人が有効な情報源となり、かつ学習意欲を喚起させる存在であることを示しているといえる。

学習サポートを高く行った上級生は低い人に比べて学習意欲尺度の3つの下位尺度において有意差の傾向がみられたが、下級生へのサポー

トを行うにあたり、上級生は計画的に集中して学習していたといえる。また、「友達から頼られ教えることの満足感」に有意差があったことは、サポートをすることで下級生から頼られ、教えることの満足感が高まったと考えられる。これらは、上田¹⁾が述べている学習サポートを行う側と受ける側の両者の学生の学習意欲の向上に有効であることを示しているといえる。

青年期は子どもから大人への移行期で不安定な時期であり、自我同一性を確立する過程においては葛藤や緊張状態に陥りやすい。今回の調査の結果、学校生活不安感が低いと下級生への学習サポートを高く行うことができることことから、学習サポート制度を設定するに際し、上級生の心理面に対して必要な支援を行うことで、上級生だけでなくサポートを受ける下級生に対しても効果的な学習環境を提供することに繋がると考える。

【まとめ】

学習サポートは下級生の学校生活不安感に関連性はなかったが、学習意欲には影響があった。また、学校生活不安感が低いと上級生は学習サポートを高く行い、そのサポートを通じて部分的ではあるが、学習意欲に影響を受けることがわかった。学習意欲を育むことができるように、今回の結果を活かして学習環境を整えたい。

【引用参考文献】

- 1) 上田伊佐子, 川西千恵美: 屋根瓦式教育が看護学生の学習意欲に与える効果, 日本看護研究学会雑誌, Vol. 33, No. 3, 212, 2013.
- 2) 小竹久美子: 看護学生用学習意欲尺度の信頼性・妥当性の検討, 日本看護学教育学会第17回学術集会講演集, 206, 2007.
- 3) 細川和仁: 初年次教育における学習ピアサポート活動, 秋田大学教養基礎教育研究年報, 1-9, 2008.
- 4) 藤井: 大学生生活不安尺度の作成および信頼性・妥当性の検討, 心理学研究, Vol. 68, No. 6, 441-448, 1998.